

# 大豆管理情報（第1号）

令和6年7月2日

農業技術課 広域普及指導センター

## 1 気象経過（図1）

### （1）気温

5月下旬の平均気温は、18.4℃（対平年差-0.6℃）と平年より低かった。

6月の平均気温は、23.2℃（対平年差+1.8℃）と平年よりかなり高かった。

### （2）降水量

5月下旬の降水量は、5月28日の大雨の影響もあり、133.0mm（対平年比368%）と平年に比べかなり多かった。

6月の降水量は、150.0mm（同87%）と平年並であった。

梅雨入りは、6月22日（前年6月9日、平年6月11日）と平年に比べ11日遅かった。

### （3）全天日射量

5月下旬の平均全天日射量は、16.6MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比86%）と平年に比べ少なかった。

6月の平均全天日射量は、20.3MJ/m<sup>2</sup>/日（同117%）と平年に比べかなり多かった。

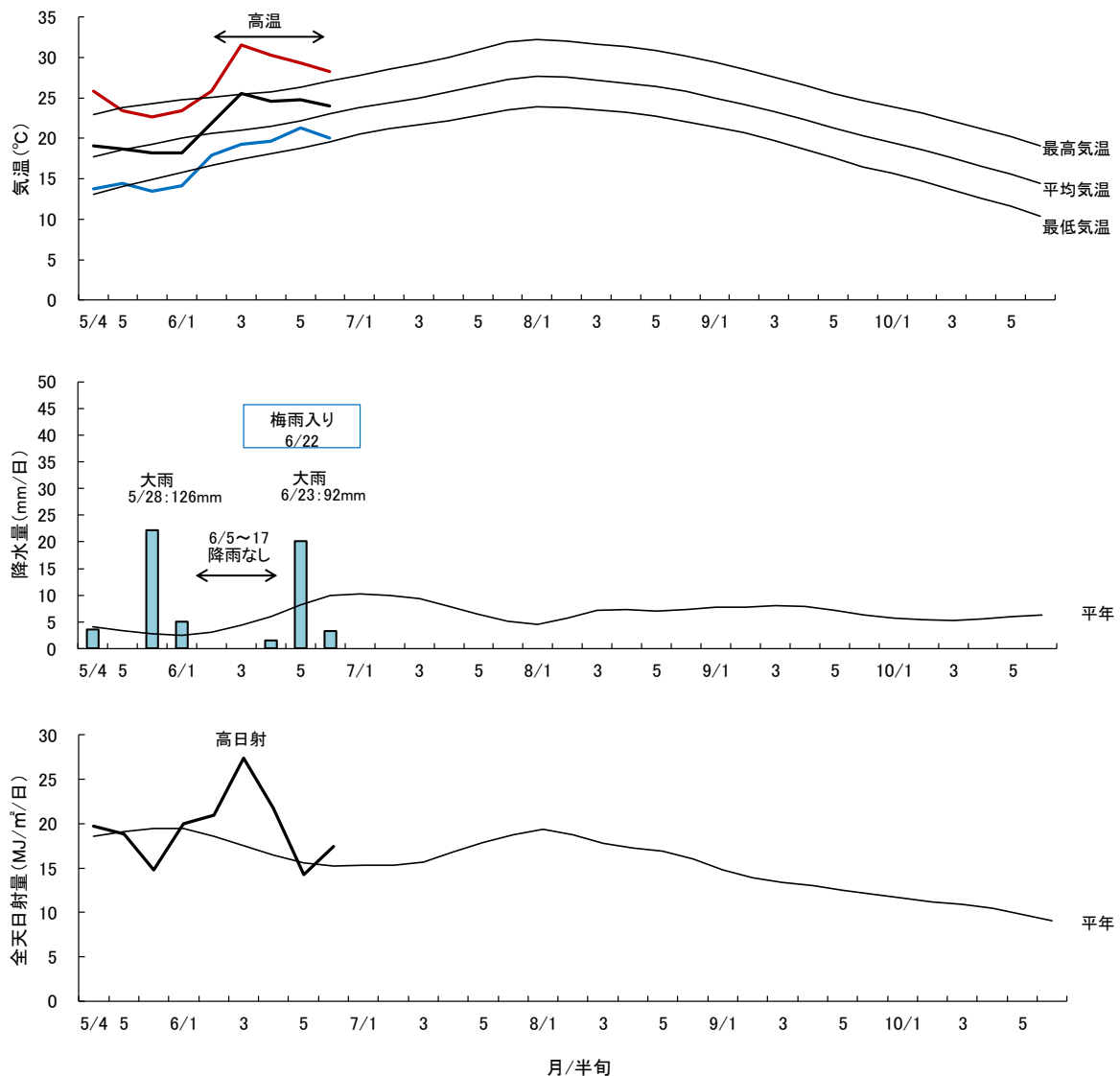


図1 令和6年の気象経過（富山地方気象台）

## 2 苗立・生育状況（生育観測ほデータ）

### （1）エンレイ（単作）

- ・播種時期は、6月5日と平年より5日遅くなった。平年に比べ、苗立率は95.8%と並、苗立本数は17.7本/m<sup>2</sup>とやや多くなった。
- ・平年に比べ、主茎長は19.0cmと短く、本葉葉数は3.8葉と0.6葉少なく、一次分枝数は並となっている。

### （2）エンレイ（麦あと）

- ・播種時期は、6月7日と平年より1日遅くなった。平年に比べ、苗立率は93.0%、苗立本数は16.4本/m<sup>2</sup>と並であった。
- ・平年に比べ、主茎長は17.0cm、本葉葉数は3.1葉と並、一次分枝数は0.2本多くなっている。

### （3）シュウレイ

- ・播種時期は6月7日と平年より1日遅くなった。平年に比べ、苗立率は90.2%と並、苗立本数は12.4本/m<sup>2</sup>と少なくなった。
- ・平年に比べ、主茎長は16.8cm、本葉葉数は2.6葉と並となっている。

表1 大豆生育観測ほ調査結果（7月1日調査）

品種	年次	播種月日 (月日)	苗立調査		生育調査			
			苗立本数 (本/m <sup>2</sup> )	苗立率 (%)	主茎長 (cm)	本葉葉数 (葉)	一次分枝数 (本)	
エンレイ	単作	R6	6月5日	17.7	95.8	19.0	3.8	0.1
		R5	6月7日	17.4	94.0	17.0	3.4	0.0
		平年	5月31日	16.5	92.4	23.1	4.4	0.1
	平年比・差	5	107	104	82	-0.6	0.0	
	麦あと	R6	6月7日	16.4	93.0	17.0	3.1	0.2
R5		6月5日	16.5	91.5	17.4	3.5	0.0	
平年		6月6日	16.8	92.5	17.2	3.0	0.0	
平年比・差		1	97	101	99	0.1	0.2	
シュウレイ	R6	6月7日	12.4	90.2	16.8	2.6	0.0	
	R5	6月11日	13.0	88.0	13.8	1.6	0.0	
	平年	6月6日	15.2	87.7	17.4	2.5	0.0	
	平年比・差	1	81	103	96	0.1	0.0	

注1)調査ほ場数:エンレイ(単作5、麦あと3)、シュウレイ(単作3)

注2)平年値はH26~R5

注3)平年比・差:苗立本数、苗立率、主茎長は平年比、播種日、本葉葉数、一次分枝数は平年差

## 3 当面の技術対策

- ・梅雨時期であることから、ほ場内の水が停滞しないよう溝の手直し等を行い、排水対策を徹底する。
- ・培土はほ場が乾いているときに確実に2回実施する。
- ・雑草が多い場合は、①雑草の種類や葉齢、②大豆の生育状況に応じて除草剤を適切に使用する。

### （1）排水対策の徹底

- ・梅雨の晴れ間に培土作業が実施できるよう、ほ場内の水が停滞しないよう溝の手直しを行い、排水対策を徹底する。

## (2) 確実な培土の実施

- ・培土は適期（本葉2～3葉期と本葉4～5葉期）に2回実施し、株元まで確実に土寄せを行う。ただし、培土は、ほ場が乾いている時に適正な作業速度で行う。
- ・出芽が不揃いなほ場では、生育の早い株に合わせた時期に培土を行い、出芽の遅い株が埋まらないよう低めで培土を行う。
- ・培土後は、培土でできた溝を額縁排水溝及び深く掘り下げた排水口にしっかり連結し、ほ場内に水が停滞しないようにする。

## (3) 早めの雑草対策

- ・2回の培土を確実に実施し、雑草の発生を抑える。
- ・雑草が多い場合、雑草の種類や葉齢、大豆の生育状況に応じて除草剤を適切に使用する。
- ・難防除雑草（帰化雑草等）が発生するほ場では、草種に応じて防除効果の高い除草剤を選定し、雑草が大きくなる前に防除を行う（表2、図2）。
- ・ほ場周辺（畦畔、農道等）で難防除雑草の発生がみられたら、開花・結実前に防除（除草剤散布、地際からの刈取り）する。

表2 難防除雑草（帰化雑草等）に対する除草効果（目安）

草種	茎葉処理剤					茎葉兼土壌処理剤
	選択性		非選択性			ロロックス
	大豆 バサグラン液剤 全面散布	アタックショット乳剤 全面散布	バスタ液剤 畦間処理 株間処理	ザクサ液剤 畦間処理	ラウンドアップ マックスロード 畦間処理	
帰化アサガオ類	▲(種間差あり)	▲(種間差あり)	○	○	▲	▲(種間差あり)
ヒユ類	▲(種間差あり)	○	○	○	○	○
イヌホオズキ類等	▲(種間差あり)	○	○	○	○	○

注1) ○：効果が高い▲：効果が劣る

注2) 登録内容（適用、使用方法等）を確認して使用する。

また、非選択性茎葉処理除草剤は、周りの作物にかからないように注意する。

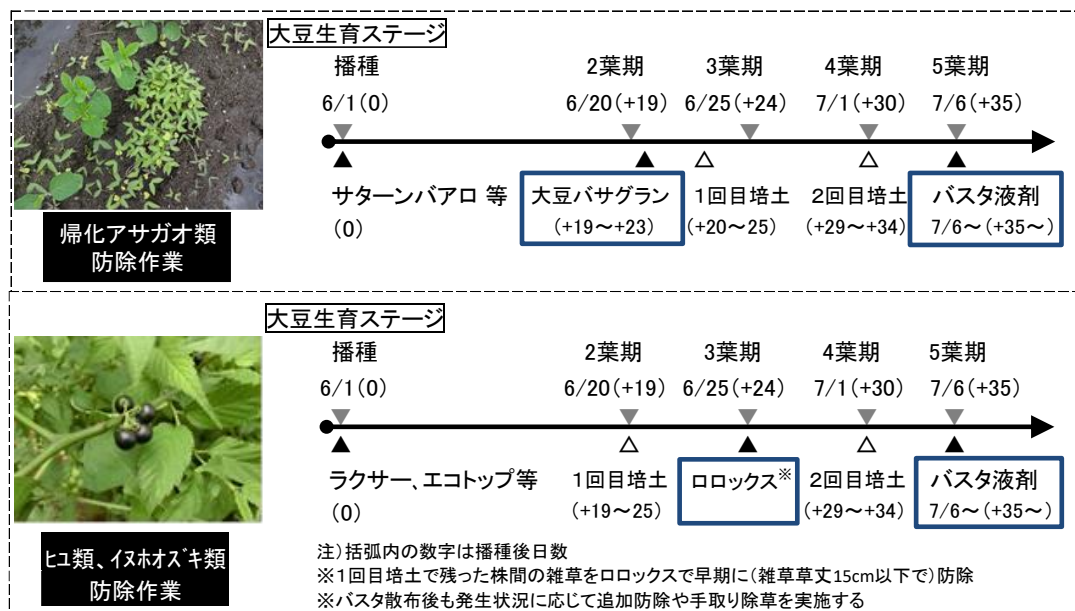


図2 難防除雑草（帰化雑草等）に対する防除と管理の目安

## (4) 茎疫病の防除

- ・多湿条件で発生が多く、冠水は発生を助長する。
- ・常発地や冠水したほ場を巡回し、発生が認められた場合には、確認後直ちに地際部を中心に薬剤（Zボルドー粉剤DL、フェスティバルC水和剤など）を散布する。